

自治会のDX推進を

答 区長会において検討していく



大城 重太 議員

問 コロナ禍の3年間を経て自治会活動が明らかに低迷しているように感じる。町長はどのように考えているか。

副町長 新型コロナウイルスの影響により、様々な自治会活動が制限されていたことは認識している。今後は活動を再開していくものと考えており、情報交換を図りながら、支援を行っていく。

うか。

副町長 区長会において、自治会のDX化について情報提供等を行い、各自治会の意向を確認した上で、導入支援について検討していく。

問 自治会の活性化につながる活動、またDXを進める取り組みに助成金を出して、自治会のバックアップをしてほしいが可能か。

副町長 他自治体の先行事例について調査を行い、また区長会においても各自治会からの要望等を確認した上で、自治会活性化につながる取組について検討を行っていく。

生活道路の安全確保を問う

問 町道29号と町道64号が交わる交差点は通学路にもなっているが、町道64号側は道幅も狭く、横断する際も不安を感じる。注意喚起を促すような対策はできないか。また、照屋十字路の迂回路となっている町道68号を通る車両の、速度抑制をする対策はできないか。

副町長 質問の箇所は交通基本計画のワークショップにおいても課題が挙げられている。本町としては令和6年度に予定している翔南小学校地区の生活道路安全対策協議会内にお

いて対策を協議し実施していく。



生活道路の安全確保要望箇所

問 照屋十字路には右折レーンを設けるなど、改善が急務だと考えるが、県に要請を行うなど町が積極的に取り組むことは可能か。

副町長 照屋十字路については交通基本計画策定時のワークショップ内においても、右折帯の設置、交差点の改良等の要望が挙げられており、町としても県に積極的に対策を行うよう要請をしていく。